

## ◇実践活動記録

ふるさと西条に愛着と誇りをもち、ふるさとの未来を創造する子供の育成

### 1 はじめに

本校の校区には、高岡鋳物発祥の地であり、伝統的建造物群保存地区の選定も受けた金屋町があり、毎年6月に伝統の「御印祭（ごいんさい）」と「弥栄節（やがえふ）街流し」が行われている。また、校歌の一節には「農工商の花さいて」と謳われており、校区は、本市の伝統産業である銅器やアルミ産業等の盛んな地域、国道沿いを中心とした商業地域、さらには農業が盛んな田園地帯が併存している。

このような校区の特色を生かし、ふるさとを学びのフィールドとして、学校・家庭・地域が連携し、地域の人や自然、産業や歴史、伝統、文化等に関する体験的な学習を進めた。

### 2 活動の実際

#### ○第2学年 生活科「町のすてき大発見」

自分の住む町のすてきな「ひと・もの・こと」を見付け、関心を持ち、進んでかかわる子供の育成を目指して、「まちたんけん」を行った。

1学期には、歴史や文化の薫り高い町を巡った。有磯神社では、「親子抱き合いの櫓」「かえる石」などを実際に見学し、その意味を知った。金屋町では、「石畳にハートの形が隠れていたよ。」「緑地公園にお父さんの小学生の頃の



銅でできた作品があったよ。」「金屋町の千本格子は古い感じがするね。」などの感想をもった。

2学期には、スーパーや家電量販店など、商業施設が並ぶ地域を巡った。「大きな看板は遠くからでも見えるね。」「いろいろなお店があって便利だね。」など、子供たちは、校区のそれぞれの町の特徴を知り、町のよさに気付くことができた。

### ○第3学年 総合的な学習「調べよう！伝えよう！西条再発見～西条のすてきを調べよう～」

家族や地域の人と関わり、体験を通して西条のよさを見付け、調べたことや学んだことを実践したり、工夫してまとめたりする活動を行った。

P T Aと連携し、学年の親子活動として親子で校区を巡り、学習専用端末を用いて再発見した校区のよさを写真等に記録し、学習発表会で展示発表した。



### ○J A高岡青年部の協力による農業体験「米づくり」「サツマイモづくり」

第5学年では、社会科の授業の一環として、J A高岡青年部の協力により、校区の水田を借りて苗植えの体験を行った。また、現代の「スマート農業」の取組事例として、GPSを利用した最新の田植機の実演をしていただいた。



子供たちは「昔の人たちは、人の力で全部行わなければならないので大変な苦勞だったと思う。」「GPSの田植機は、手放してもまっすぐに苗を植えられるのでびっくりした。この他の機械もどうなっているか調べてみたい。」など、昔の農業とこれからの農業について学ぶことができた。

なお、8月には収穫体験も予定していたが、コロナの影響により、子供たちの参加は見合わせた。

さらに、土曜学習の一環としてPTAとも連携し、同じくJA高岡青年部の協力による「サツマイモづくり」を行った。親子で苗植えと収穫を体験した。



収穫したお米とサツマイモは各家庭で味わった。お世話になったJA青年部の方を招き、「感謝の集い」を行った。

### ○ものづくり・デザイン科「鋳物の歴史を調べよう」「鋳物の風鈴づくり」

第5学年では、鋳物発祥の地である金屋町や鋳物の歴史や工程などについて、校区にある金屋町や鋳物資料館、さらには高岡地域地場産業センター「愛称：ZIBA（ジーバ）」を訪問して調べ、伝統工芸への理解を深めた。



また、第6学年では、鋳物の風鈴づくりを体験した。

砂型に自分でデザインした模様を彫る作業は、学校に職人さんを招いて指導していただき、鋳込み作業は、実際に金屋町の工房を訪れ、職人さんに指導を受けながら、溶かした錫を流し込んだ。

伝統工芸のすばらしさと職人さんの生き方に触れる貴重な学びの機会となった。



### ○弥栄節保存会の協力による「弥栄節踊り教室」「弥栄節街流し」

地域の伝統文化である「弥栄節踊り」を、保存会の協力を得て上級生から下級生へと伝承する取組を行っている。運動会で保護者や地域住民に披露するとともに「御印祭」前夜の「弥栄節街流し」には地域の一員として参加する活動を継続している。



伝統の「御印祭」「弥栄節街流し」は、コロナ禍のため2年連続中止となったが、学校では、今年も地元の保存会から講師を招き、「弥栄節踊り教室」を開催した。また、授業で子供たちを指導する教職員を対象とした教室も別途開催され、子供たちも教職員も地域の伝統文化を体験するとともに、保存会のメンバーの方との交流を深めることができた。

御印祭や街流しは中止されたが、練習の成果は運動会で披露し、保護者や地域の皆さんから大きな拍手をいただいた。今年も地域と学校の伝統をつなぐことができた。

### 3 まとめ

本校は、令和6年度に横田小学校、川原小学校との統合が予定されている。新たな学校づくりは新たな地域づくりでもある。子供たちには、地域のよさを再認識し、ふるさとへの愛着と誇りをもってほしいと願っている。自分たちが住む地域への愛着と誇りは、他の地域を尊重する心にもつながると考えるからだ。

2年後の統合を見据え、3校区の様々な資源を生かし、家庭や地域との協働によるふるさとを学びのフィールドとした取組を展開することで、「ふるさとが人を育み、人がふるさとの未来を創造する」という好循環へとつなげていきたい。今後は、そのための3小学校の特色を生かした教科等横断的な視点での教育課程の編成等に取り組む必要がある。